

今回の調査から

(1) 意識調査から

今回の調査では、全ての5年目研修受講者、10年目研修受講者、20年目研修受講者を対象にアンケートを実施し、学校評価の取組に関する意識について把握しました。その結果からは、学校評価に関する有用感、外部評価の必要感が高いことが明らかになりました。

一方、実施に当たって課題を感じている教職員が多くいることも明らかになりました。

(2) 聴き取り調査から

各校の取組に積極的に取り組んでいる先生方に、評価が学校の改善に活かされているという充実感、達成感が味わえる取組がたくさんありました。一人一人の先生の充実感、達成感が、組織としての「生きてはたらく力」、「協働」につながっています。

しめくりに、聴き取り調査をして印象に残った先生方の話を紹介します。

テトラSの手法を生かして学校の改善を図ってきた中学校の先生からは、「評価を繰り返しながら取り組んだこの活動で、確かに生徒は変わりました。でも、一番変わったのは私たち教師です。」との言葉が聞かれました。

ある小学校の校長は、「学校はこんなことに努力します。」と、学校の取組を保護者に説明し、事あるたびに「学校だより」を通して学校の取組を伝えてきました。しかし、3年間伝え続けてきても、なお学校の取組についてよく分からないとの指摘がありました。それでも、「取組の様子が分からないという回答の方が少数ながらおいでになったことを反省材料とし、これまで、学校だよりや授業参観、学校公開、学年だよりなどにより、学校の取組を紹介するよう努めてきましたが、さらに効果的な方法を探りたいと思います。」と訴え続けています。

ある中学校では、聴き取り調査の訪問時がちょうど清掃時間でした。清掃時間が終わり、聴き取りの約束をした先生とお会いした際に、その先生が開口一番言われたことは、「生徒は、清掃をきちんとやっていたか？お客さんにあいさつはきちんとできましたか？お世辞抜きに教えてください。」でした。「清掃とあいさつは、学校で取り組む今年の重点指導なんです。お客様から得られた情報も、外部評価ですからね。」とも話されていました。あらゆる場面で外部からの評価を得るように心がけており、いい評価が得られた際には大いに生徒を賞賛しているそうです。

このような先生方の声は、評価を生かして学校運営の改善を図ろうとする努力が各学校でなされていることを実感させるものでした。ただ、調査にご協力いただいた学校が提供してくださった資料の全てはご紹介できませんでしたので、事例ごとに示した「この事例に学ぶこと！」に反映させていただきました。

この参考資料が様々な活用され、学校評価システムの充実改善のつながることを祈念しています。

最後になりましたが、聴き取り調査にご協力いただいた各学校と、調査研究に当たりま

して、ご指導、ご助言いただきました、国立教育政策研究所 高等教育研究部 木岡一明
総括研究官、宇都宮大学教育学部 藤井佐知子教授に深く感謝申し上げます。

参考資料

- 『公立学校における学校評価及び情報提供の実施状況』 2004年1月16日
文部科学省 初等中等教育局初等中等教育企画課
- 『学校評価及び情報提供の実施状況』 2006年1月16日
文部科学省 初等中等教育局初等中等教育企画課
- 『公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況』 栃木県教育委員会
- 『学校評価の手引き』（平成17年3月） 栃木県教育委員会
- 『学校評価 Q&A - 明日の学校づくりのために - 』（平成17年3月）
栃木県総合教育センター
- 『平成16年度 生きる力をはぐくむ教育に関する調査報告書』
栃木県小学校校長会
- 『学校評価の「問題」を読み解く 学校の潜在力の触発』 木岡 一明：著 教育出版
- 『Benesse VIEW 21』〔中学版〕2005年4月号

参考 URL

- 「テトラS」メニューページ <http://www.k-tetras.com/menupage.htm>
- 国立教育政策研究所 高等教育研究部 木岡研究室 <http://www.nier.go.jp/kazu/>